

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.60 春号



職場受け取り1カ月間チャレンジ！にご参加いただきました
(関連記事p.2,3)



推進員活動の様子／丹後の豊かな環境づくり推進会議
(関連記事p.4)



商業施設で再エネイベントを実施 (関連記事p.6)

🐼 contents

- 2-3 特集**
宅配便「再配達削減チャレンジ！」
キャンペーン 結果報告
- 4 第8期 京都府地球温暖化防止
活動推進員 活動報告**
- 5 理事によるコラム**
海外の先進事例を
どのように参考にすべきか？
- 6-7 【活動レポート】**
商業施設で再エネ体験展示を行いました
○京都再エネコンシェルジュと再エネについて
学ぼう！

○与謝野町の環境未来2019

再エネ工作教室の作り方ページができました

エコ×福祉 “断熱”の取組を行いました

事務所の照明をLEDに交換しました！
- 8 使ってください！貸出グッズ**
みどりのカーテン、準備の時期です
サクラ開花調査・カエデ紅葉調査



京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。



宅配便「再配達削減チャレンジ！」 キャンペーン 結果報告



個人向け「再配達削減チャレンジ！」

パンフレットやSNS等で再配達問題や宅配便の受け取り方法が多様化してきていることを発信しました。パンフレットはイベント等で説明・配布したほか、京都府地球温暖化防止活動推進員さんを通じて、また様々な協力団体さんを通じて配布。「あなたにとって便利な受け取り方法を見つけて再配達削減にチャレンジしませんか」と実践を呼びかけました。

＼ イベントにて計463名の方にアンケートへご協力いただきました ／



再配達削減チャレンジの効果について

チャレンジ実施後のwebアンケートには、120名の方にご協力いただくことができました。その回答結果より、120名の1カ月間の再配達回数はのべ206回でしたが、再配達削減チャレンジ後は97回になりました（再配達を109回削減⇒平均すると、約52%削減）。受け取り方法を意識して選ぶことは再配達を減らすことにつながることも、また、同時に受け取り手の利便性向上にもつながることもわかりました。

再配達削減チャレンジをした人の再配達回数は



約**52%**
削減!

アンケート回答者
120人の平均

コンビニ受取・お届け通知サービス・宅配ボックスなどの受取方法がまだまだ知られていない!実践の余地あり!

○ アンケートより

AmazonでなくE-honを使って自宅近くの書店で受け取りをしてみました。急がないときはこれからもE-honを利用しようと思いました。書店の売り上げにもなるので、気分的にコンビニより受け取りやすいです。

通知サービスや日時指定は、ちょっとしたタイミングで行き違ってしまふことがあるので、コンビニや職場など、受け取りやすい場所で受け取るほうが個人的には合っているなあと感じました。

ネットは便利。なくならないだろう。だからこそ、再配達減らせるといいと思う。

お隣のお宅のご主人が、某大手配達業者の運転手で、12月に会った時に「昨日の配達は123個で、うち60件が留守だった」と聞き、年末年始の気軽な発送、ネットショッピングを自粛しようと考えました。

再配達で得する方はいないので、できるだけこういった取り組みを広げていくべきだと感じました。

事業者の通知サービスは、発送する方が契約していないと通知が来ないことがあるそうだから、発送する側の姿勢や努力も必要ではないかと思いました。

2018年度
京都府内の動き

- ・宇治市にてオープン型宅配ボックスの実証実験が行われました（環境省事業）。
- ・笠置町では、人手不足の解消や業務効率化を目的として、タクシー運転手が空き時間を活用して集配荷を行う貨客混載事業を10月末から開始しています（佐川急便と山城ヤサカ交通）。
- ・精華町では、電柱に宅配ロッカーを取り付けて近くのマンション住民に共同利用してもらうサービスの試験実施が行われました（関西電力等）。

今年度、京都府地球温暖化防止活動推進センターが実施した再配達削減プロジェクトについて、アンケート結果などを踏まえてご報告します。(再配達の問題については、うぉーみんぐ57号2～3ページをご参照ください)。



事業所向け「職場受け取り1カ月間チャレンジ!」

個人の荷物を職場で受け取る「職場受け取り」について、実践がしやすい中小事業所を中心に呼びかけました。同時に従業員への啓発にもご協力いただきました。



職場受け取りチャレンジの結果

アンケート回答のあった10事業所では1カ月で合計83回の職場受け取りが実践されました。職場受け取りはコストゼロで実施できる社会貢献であり、従業員の福利厚生の一環にもなると、参加された事業者の方々から好評でした。また、アンケートを回答いただいたすべての事業所から「今後も職場受け取りを継続したい」との回答がありました。

職場受け取りに参加
した10事業所で



コストゼロで社会貢献！好評！
再配達が減らせるだけでなく、
配送先をまとめることにも！

83 回
職場受け取り

○ アンケート等より

仕事の後、自宅で夜に受け取るよりも、職場受け取りをした方が、確実にらくちん。いつも必ず再配達だったのが、無くなりました！

職場の人たちに渡す重いのを、わざわざ家から持っていかなくて楽でした。

個人の荷物ではないですが、仕事で受け取る際に、自社の休業日を相手に伝えて、再配達にならないようにしています。

職場受け取りで、発送のタイミングでは土日祝（休業日）にかかる職場での再配達が発生する場合があるので、日時指定に気を付ける。

職場での代引きの受け取りをどうするかは、事前に確認しておいた方が良いです。

\\ 当センターでは、2019年度も再配達削減の取組を予定しております。引き続きご協力をお願い致します！ //

省エネ法の 改正

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（いわゆる「省エネ法」）が改正され12月1日から施行されています。その中では、貨物輸送のさらなる効率化のための荷主の定義の見直しと準荷主が位置づけられました。これにより、貨物の所有権のないネット小売り事業者も省エネ法の対象となり、配送におけるエネルギー使用の合理化に関する責務が発生します（一定規模以上の事業者は、年1%の削減目標。一定規模以下であっても努力義務）。方法は事業者の創意工夫にまかされていますが、一例として再配達の削減やまとめ送り等が省エネに資することを消費者に啓発する等が挙げられています。

第8期 京都府地球温暖化防止活動推進員 活動報告



京都府地球温暖化防止活動推進員は、京都府知事の委嘱を受け、各地域で地球温暖化対策につながる活動に取り組むボランティアです。2018年度も331名の第8期推進員が、それぞれの特技・経験・ネットワークを活かしながら、様々な活動を行いました。

例えば、地域の小学校での出前授業、地域のイベントや学習会、町内会でのエコ地蔵盆、職場での取組、同業者や経営者仲間への働きかけ、ご家族やお友達へのお話や取組のお誘いなど、推進員のみなさまの立場を活かした活動を数多く実施いただきました。

(参考:「推進員活動 実践事例報告会」うおーみんぐ59号p.7)

8期推進員のみなさま、2018年度も、脱炭素型のステキな京都・豊かな地域・豊かな生活につながる活動にご尽力いただき、ありがとうございました。

2019年4月からは、第9期推進員315名と一緒に、府内の温暖化対策の取組を進めていきたいと思っています。引き続き、よろしくお願い致します。

2018年度推進員の
活動件数

のべ **2,142** 回

各活動の対象人数合計

のべ **89,624** 人

詳しくはこちらをご覧ください

<https://www.kcfca.or.jp/jigyoku/chiiki/suishinin-anual.html>



受賞 おめでとうございます

**平成30年度地球温暖化防止活動大臣表彰
(環境教育活動部門)を受賞**

丹後の豊かな環境づくり推進会議

温暖化のことや再エネ工作教室、そして地元の昔話などを通じて、子どもたちに「地域の魅力」を伝える体験型イベントを実践されてこられたことや、子どもたちに発表の機会を提供し、またその保護者をも巻き込む工夫をされてきたシンポジウムの活動などが評価され、環境大臣表彰を受賞されました。



「ひとこと」

『地域住民と行政との協働による持続可能な地域づくりに向け、子ども達と一緒に地域の自然・文化・歴史を学んできました。今後も地域産業とも調和のとれた活動に取り組んでまいります。』

- ▶ 地球温暖化防止活動 環境大臣表彰について
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/min_award/index.html
- ▶ 夏休み少年少女エコ体験ツアー うおーみんぐ 46 号 6 ページ
<https://www.kcfca.or.jp/xbitmtp/center/download/warming46.pdf>

**京都環境賞特別賞(エコ学区賞)を受賞
桃山エコ推進委員会**

CO₂削減とごみ減量に役立つロケットストーブ普及活動や、桃山小学校や児童館での環境出前授業、その他グリーンカーテン普及や生ごみ堆肥作り講習会など、地域に根ざした「エコ×子育て×防災」の活動を通じた世代間交流の取組で、地域力アップにつながっていると評価され、エコ学区賞を受賞されました。



「ひとこと」

『今後、大学生など若者とも連携して協力してもらえたいイベントにしていきたいです。』



『ロケットストーブは学区外にも広がっています!』

- ▶ 桃山エコ推進委員会 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/momoyamaeco/>
- ▶ 桃山エコ うおーみんぐ 48 号 6 ページ
<https://www.kcfca.or.jp/xbitmtp/center/download/warming48.pdf>

海外の先進事例を どのように参考にすべきか？

松原 斎樹

特定非営利法人京都地球温暖化防止府民会議理事
京都府立大学教授

よく、諸外国では温暖化対策が進んでいるのに、なぜ日本では進まないのか、と言われる。この「なぜ」について考えることはとても重要なことだと思われます。個人的な経験ですが、10年ほど前に、ベルリンで開催される国際学会に参加するために搭乗した飛行機で隣席のドイツ人に尋ねたことがあります。日本企業の現地法人の社員で、日本での研修の帰りとのことでした。私が、「ドイツでは、環境問題に対する取組がうまくいっているように思うが…」と尋ねたところ、「新聞社、立法府、行政府…がそれぞれ自分のなすべき仕事をしているからだ。石油資本が議会も大統領も動かしている国もあるけどね。」という回答でした。日本人に対するコメントはありませんでしたが、ドイツ人の国民性を表しているように思われます。

その後、このことを思い出すことは特になかったのですが、最近、「木を見る西洋人 森をみる東洋人」(R・E・ニスベット著、ダイヤモンド社)という本を読んで、このことを思い出しました。社会心理学者である著者によると、西洋人は対象を分析的に見ようとするが、東洋人は周囲の状況を含めて全体的に見ようとする(非常に大雑把な括りですが)、という違いがあるようです。この見方自体は、F.テンニエスのゲマインシャフト(共有されたアイデンティティ意識にもとづく共同社会)、ゲゼルシャフト(道具的な目標を達成するために組織された利益社会)の区別とも共通するので、目新しいことで

はありません。しかし、心理学者が、これでもかと多数の実験データを示しており、懐疑的な人を納得させるだけの説得力があります。一例として、中国人は行動の原因を文脈に求めるが、アメリカ人は行為者に求める傾向があること、また、この原因推測の仕方は、注意の向け方の違いにも関係していると述べられています。水中場面の静止画(水槽の中で魚が泳いでいるもの)を見て再生する実験では、日本人は、アメリカ人よりも背景的な要素に言及することが多いという結果でした。いわば、「日本人は、世界を広角レンズでみているが、アメリカ人はトンネルのような視野しかもっていない」かのようです。場依存性を測定する実験的な方法があるのですが、日本人などアジア人は、アメリカ人よりも、場依存性が高いこともわかっています。このような事例が多数紹介されているので、私は、たいへんに面白く読ませてもらいました。

また、イエズス会の宣教師は、本来は論理的に説得して布教するのですが、日本では、『カトリック信者になるとどんなに素敵な感じがするか』を丁寧に説明する方が成功した、という主旨のことを文化人類学者E・ホールが紹介しています。

海外の先進的な温暖化対策の事例を参考にすることは有益ですが、日本に導入して実践するためには、その国の人々と日本に住んでいる人々との違いを意識する事は重要でしょう。

商業施設で再エネ体験展示を行いました

「京都再エネコンシェルジュと再エネについて学ぼう！」

1/20（日）イオンモール京都桂川で京都再エネコンシェルジュのいる7つの事業所とともに、家庭向け再生可能エネルギーの普及啓発をおこないました（京都府主催、当センター事務局）。当日は多くの家族連れで賑わい、再エネについての多くの質問に京都再エネコンシェルジュさんが答えていました。



「与謝野町の環境未来 2019」

3/3（日）与謝野町の商業施設ウィルにて行われた「与謝野町の環境未来 2019」（よさの百年の暮らし委員会主催）に与謝野町の京都再エネコンシェルジュと協力して再エネ啓発のブース出展を行いました。当日は、エコ縁日として射的やわなげ、再エネクイズ、再エネ発電体験などで賑わいました。

あなたの家にぴったりの再エネ設備をご提案。

「京都再エネコンシェルジュ」についてはこちらをご覧ください。

<https://kyoto-saiene.net/concierge/>



再エネ工作教室の作り方ページができました



再エネ工作教室の作り方やマニュアルを解説したページができました。ぜひ活用ください。

再エネ工作教室は、再エネへの理解を深めてもらうため、主として小学4年生以上を対象に、「温暖化についての授業」「再生可能エネルギーなどの実験」「再エネ工作」の3つを合計2時間ほどで行うプログラムです。

<https://kyoto-saiene.net/report/edu/>



事務所の照明をLEDに交換しました！

2月某日、事務所のすべての照明をLEDに交換しました。交換前の蛍光灯は85Wで、交換後のLEDは25Wです。消費電力は約1/3になりました。

20か所の交換は、1日もかからずに終了。スタッフは普通に仕事をしながら、自分のデスクの真上の照明を交換するときだけ場所移動をしました。明るく省エネなLED照明、もっと増えるといいですね！



エコ×福祉“断熱”の取組を行いました

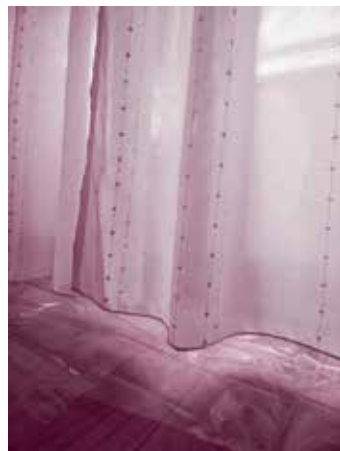
家の中の温度差が大きいことによって引き起こされるヒートショック。室内における高齢者の死因の約4分の1を占め、日本で年間累計1万人以上がヒートショックで亡くなっていると言われています。家の中の断熱対策をすることは、健康を守ることにつながり、同時に暖房効率が良くなるため省エネにも繋がります。

今年度当センターでは、京都市鷹峯学区で行われたエコ学区ステップアッププログラム「地域ぐるみの省エネ・快適生活サポートプロジェクト」、および城陽市「家庭における冬の実証事業」のお手伝いをさせていただきました。合計9家庭にご協力いただき、それぞれのご家庭に合わせた対策をお手伝い。断熱対策として、断熱カーテンライナーの設置や床の断熱マットの設置、省エネ対策としてLED化やエアコンフィルターの掃除を行いました。さらに効果測定も行いました。

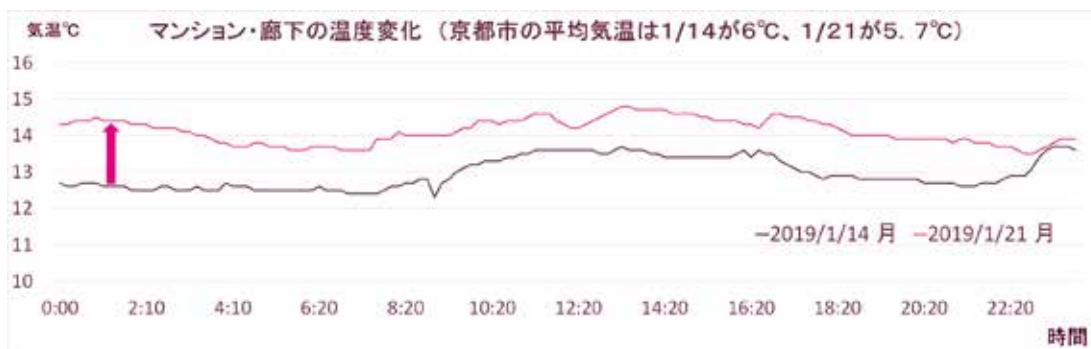
断熱カーテンの設置例



金属ドアの手前に断熱カーテンライナーを設置。冷気を防ぐ。



カーテンと一緒に断熱カーテンライナーを設置して窓からの冷気を防ぐ。



「玄関のカーテンライナーのおかげでお風呂を入れる時に廊下に出ても前ほど寒くなくなった。石油ファンヒーターは、つけるのを控えるようになりました。」という感想をいただいたご家庭は、マンション玄関の金属ドアから入ってくる冷気を防ぐために、玄関と廊下の間に断熱カーテンライナーを設置。断熱カーテンライナーから室内側の気温について外気温が同じような日を選んで比較しました。設置前と比べると、断熱カーテンライナーから室内側の廊下の気温が、最大で1.9℃、平均で1.2℃あがりました。

断熱マットの設置例

こたつやホットカーペットの下に断熱マットを敷くと、温めた熱が床下に逃げにくくなります。脱衣場や台所などのフローリングの上にコルク等の断熱マットを設置したご家庭も。「断熱マットは上にのった時に冷たさを感じなくなりました」（モニターの方の感想より）

「とてもよかった。別の場所にも設置したい」とモニター期間後に設置個所を増やされたご家庭もありました。



断熱対策を行う際に、危険と思われるもの（例：断熱マットによる段差で転倒の可能性がある、コンロの近くにカーテンの取り付けをする等）は設置を止めましょう。また、ご家族の快適性が損なわれるもの（例：見た目がどうしても気になる、出入りの際にとてもしゃべりになる、マットがあると座り心地が悪くなった等）は撤去をしましょう。

使ってください！貸出グッズ

web <https://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/tool/tool.html>



イベントなどで活用できる、環境学習教材や展示物を無料（送料の負担は必要です。ご相談ください）で貸出しています。2018年度は104回の貸出がありました。2019年度もどんどんご活用ください！

2018年度貸出回数ランキング！

- 1位 誤解の多い省エネ術（掛け軸＋パネル） 11回
- 2位 自転車発電機 9回
手回し発電電球点灯キット（複数人用） 9回

他にもたくさんの教材があります。HPをご覧ください！

みどりのカーテン、準備の時期です

web <https://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/midori/index.html>



夏に窓辺でつる性植物を育てて、直射日光をさえぎり、室内の温度上昇を防いでくれるみどりのカーテン。代表的な植物であるゴーヤはの苗の植え付け時期は、4月下旬～5月上旬ごろが目安です。当センターホームページには、みどりのカーテンの効果や育て方を掲載しています。また、育成ガイドブックやパンフレットPDFのダウンロードもできますので、ぜひご活用ください

みどりのカーテンTOP



サクラ開花調査 カエデ紅葉調査



web <https://kyoto-ondanka-eikyo.wixsite.com/index>



温暖化の身近な動植物への影響を調べるため、春にはサクラ開花調査・秋にはカエデ紅葉調査が、市民参加の形で実施されています。調査結果は龍谷大学名誉教授の増田啓子先生がとりまとめています。調査への参加方法や結果※については、ホームページ「京都の温暖化の影響調査」をご覧ください。

※各「調査のご協力をお願い」に前回の調査結果詳細が掲載されています

● 2018年春までの調査についてはコチラ

<https://www.kcfca.or.jp/jigyoku/info/sakura-kaede.html>



京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うおーみんぐ」

（平成 31 年春号 平成 31 年 4 月発行（年 4 回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

（特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議）

理事長：郡嶋 孝

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL：075-803-1128 FAX：075-803-1130

URL：https://www.kcfca.or.jp E-mail：center@kcfca.or.jp

Facebook：https://www.facebook.com/kcfca

編集：木原浩貴 川手光春 浅井薫 三枝剛 河田理恵子 根岸哲生

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！

年度会費 正会員（個人）：2,000 円 正会員（団体）：3,000 円

準会員（個人）：2,000 円 準会員（団体）：3,000 円

賛助会員：10,000 円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

